

授業科目

器械運動領域指導実習

担当教員名 五十嵐 久人、森泉 哲也	対象学年	3	対象学科	スポ
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○		○	○	◎

授業の概要

器械運動の指導力を身につけるため、マット、跳び箱、鉄棒の技の成立過程を理解する。また、技の底辺にある様々な遊びを通して器械運動に必要な動作や感覚をいかにして身につけるかを指導実践形式で学ぶ。

授業の目的

器械運動がうまくできる、あるいは苦手な子どもに対して指導のバリエーションを指導実践を通して獲得する。また、自らも指導の際に、師範できる能力を強化することを目的とする。

学習目標

マット、跳び箱、鉄棒の技へ段階を追った指導力を身につけること。そのためには、各種目ごとに応じた適切な類縁性をもつ易しい運動から難しい運動への道のりを理解し、自分で実践できることはもとより、子どもに分かりやすく安全に指導できるようにすることが、本授業の目標である。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	ガイダンスおよび各種目の運動構造の理解と技への発展段階の理解を深める。	講義	五十嵐 久人 森泉 哲也
2	マット、跳び箱、鉄棒に共通した類似性のある動作を理解し指導実践できるようにする。	実習	五十嵐 久人
3	単独での遊びや複数人での様々な運動遊びを通して、器械運動への導入を指導実践できるようにする。	実習	五十嵐 久人
4	運動遊びからマットの回転系の運動へ導入できるよう指導実践する。	実習	五十嵐 久人
5	倒立回転系への導入の仕方や、グループごとの指導実践を行う。	実習	五十嵐 久人
6	回転系の運動や逆立ち運動の段階的指導の仕方を理解し、その指導実践をする。	実習	五十嵐 久人
7	跳び箱運動の類縁性のある運動遊びを、跳び箱を用いないで指導実践をする。	実習	五十嵐 久人
8	跳び箱の切り返し系の技（開脚跳びや抱え込み跳び）の下位に位置する運動を理解し、指導実践をする。	実習	五十嵐 久人
9	跳び箱上での回転系の技への導入の仕方を理解し、その指導実践を行う。	実習	五十嵐 久人
10	鉄棒運動の様々な上がり方、下り方の段階的指導を身につけ指導実践ができるようにする。	実習	五十嵐 久人
11	様々な回転運動の構造を理解し、段階的指導ができるよう指導実践を行う。	実習	五十嵐 久人
12	懸垂振動系の技の構造を理解し、段階的指導ができるよう指導実践を行う。	実習	五十嵐 久人
13	マット運動の指導実践の確認を行う。	実習	五十嵐 久人
14	跳び箱運動の指導実践の確認を行う。	実習	五十嵐 久人
15	鉄棒運動の指導実践の確認を行う。	実習	五十嵐 久人

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料						

評価方法

本授業への積極的貢献度および指導実践試験。

履修上の留意点

マット、跳び箱、鉄棒運動の参考資料を自分で検索し、前もってその運動や技の発達段階を調べておくこと。

オフィスアワー・連絡先

授業内容の質問・相談がある学生は、所属学科・学年・学籍番号・氏名・用件を記入の上、office-hour@nuhw.ac.jpへご連絡ください。